

刑訴法等改悪！ 次は本番の共謀罪！ 戦争と治安管理エスカレートと 全面対決する戦線を創りだそう！

破防法・組対法に反対する共同行動 hanchian.3zoku.com/Middle.htm

■安倍政権による戦争・治安エスカレートの攻撃が一挙に加速している。秘密法・テロ資産凍結法制定に次いで、盗聴拡大・司法取引導入・冤罪拡大法案が成立した。しかし闘いは、法務省・警察庁の短期・密室制定願望を打ち破り、廃案へいま一步のところまで追いつめたのみならず、刑訴法等改悪法案が丸ごと治安法であることを暴きだした。稀代の悪法制定を許さざるを得なかったことは無念だが、刑訴法等改悪反対の闘いは続く。

改悪刑訴法等は6月3日に公布されたが、改悪盗聴法の全面施行は3年以内である。当然にも改悪刑訴法等への監視・糾弾・改悪阻止の闘いは続く。一つは、改悪刑訴法等の実体化との攻防である。既に6月1日、最高検が新制度準備室を設置して運用指針策定作業を始め、以降、最高裁・国家公安委もこれに続く。二つは刑訴法の更なる改悪策動との対決である。法制審答申が“後の課題”とした室内盗聴、警察官仮装身分制度、黙秘権侵害などは早晚登場する。三つは、改悪盗聴法施行との闘いである。今回の攻防で盗聴法改悪反対の声が大きな盛り上がりを見せなかった事態を克服し再構築することが問われている。

■私たちは悪法との闘いと同時並行で伊勢志摩サミット反対闘争を、戦争立法に反対してきた仲間と共同して新たに推し進めた。自衛隊・警察を軸に官民一体となった三重や首都に敷かれた戒厳態勢など治安エスカレートは洞爺湖サミット時をはるかに上回っている。関西の仲間に対する「会議室使用詐欺」弾圧は、大きく踏み込んだ文字通りの予防弾圧であった。

戦争国家実働化を進める安倍政権は、「テロ及び暴力的過激主義防止の国連事務総長行動計画を支持する」サミット宣言を受けて7月犯罪対策閣僚会議で同計画推進を決定した。新たに登場した「暴力的過激主義」 Violent extremism は「はっきりした定義がない」「テロ支援」とのことである。そして安倍政権はサミット対「テロ」宣言を受け、すでに共謀罪制定を公言している。共謀罪・改悪盗聴法・秘密法は文字通り一体の攻撃であり、セットになって民衆運動に襲い掛かることを絶対に許すわけにはいかない。しかも安倍は明らかに、明文改憲を睨んでいる。いま現場で仕掛けられている攻撃は自民党改憲草案が謳う“社会の秩序を害する表現・結社を許さない”国家の先取りそのものだ。改めて長年にわたる治安立法攻防の総括と展望を討論し、迎え撃つ態勢を整える必要がある。警鐘を乱打し、闘争態勢を大きく拡大しよう。

□安倍政権の戦争と改憲とどう闘うか——サミット反対から考える—— 討論集会

- ・日時 8月28日(日) 18時開場 18時半開始～21時
- ・場所 生活産業プラザ 多目的ホール(豊島区東池袋1-20-15 豊島区民センター裏)
- ・講演 小倉利丸さん「今、世界をどうとらえるか」
- ・交通 池袋駅 下車5分
- ・資料代 500円
- ・主催 伊勢志摩サミットに反対する実行委員会